

2013年6月9日(日) 霧島市「国分いきいき交流センター」
鹿児島児童クラブ連絡会 第7回総会 山本博美講演会アンケート

- ・市町村名 霧島市(24) 薩摩川内市(11)
指導員(32) 保護者(1) 設置者(1) 不明(1)
初めて参加した(8) 参加したことがある(26)

■今回の記念講演(山本博美さんの講演)は、いかがでしたか？

- ・具体的な事例をもとにして、わかりやすく楽しい、ためになるお話でした。2時間、聞くのが長いなと思いました。が、アッというまですぐにまた聞いていたかったです。
- ・貴重なお話をありがとうございました。自分が勤めている児童クラブの様子を思い浮かべながら、お話を聞かせていただきました。自分が子どもたちからどんな指導員とされているのかなあ、何でも話せる指導員でありたいと思いました。これからは、一人ひとりの子どもを内面から理解できるよう努めていきたいです。
- ・子ども、保護者のすぐ近くにいてくれる身近な存在の先生のお話でした。
- ・具体的な話なので、とてもよく理解できました。うなずくことばかりでした。改めて初心に帰った気がします。
- ・いつも子どもたちの様子を聞いたりしたいなと思っていたので、今日はその話を中心に参考になりました。子どもだけでなく保護者のことをおたよりに…は、今まで考えることがありませんでした。保護者にも寄り添えるようになっていきたいと思いました。子どもを“知る”と“分かる”は違うなと改めて感じました。「子どもの中にいる」をこれからもしていきたいです。ありがとうございました。
- ・山本さんの経験に基づいた、共感できる内容でした。
- ・大変楽しく聴かせていただき、ありがとうございました。子どもたちのことを分かっているのと知っているのとは違うという言葉が、心に大きく響きました。共感的に深く深く理解するという想いを、これからの毎日の中で大切に胸に刻み、過ごしていこうと思います。
- ・笑いがあつたり、ジーンと心を打たれたり、山本先生のお人柄が伝わってくるようでした。「そうそう、そういう子はいる…」と、同調しながら楽しく参加できました。ありがとうございました。
- ・実体験の中で感じたこと、起こっていることを中心にお話いただき、ユーモア一杯で楽しい講話でした。子どもを通して、声かけについて学んだ。親としても子どもとの関わり方に悩む日が多い中、他人がどのようにして子どもを理解して関わっていくのかという過程を見せてもらいました。
- ・一人ひとりの子どものかお(表情)が想像できるようなお話でした。わが学童でも話された子どもと重なる子どもがたくさんいます。一人ひとりの子どもを全て受け入れ、よりよい、子ども同士のつながりを大事にスムーズにいくように手助けできるようにやりたいと思いました。親同士や親との関わりも、子供を預かる中で信頼される指導員でありたいと思っています。
- ・実践に基づく話しでとても楽しく参考になった。
- ・指導員としての立場から具体例を交えての講話であり、楽しく聴講できました。
- ・壇上から自分の意見のみをしゃべり続けるのではなく、リスナーと同じ指導員として、同じ高さの視点で終始話されており、考えさせられることが多かった。
- ・実体験を元にしたお話は、共感できる点がおおく楽しくなりました。
- ・実話に基づいて説得力があった。
- ・子ども、親との接し方、向き合い方を考えさせられ、初心を思い出すきっかけになりました。
- ・話の内容もユニークで楽しく聞き学ぶことができました。あっという間でした。
- ・先生の体験された実話を聞けて、とても楽しかったです。保護者への一言もとても面白かったです。ですが、話しの場面が見えるところや話しの内容が良く分からないところもありました。「安心感」「つながり」は、言葉ひとつで大きく変わるのだと感じました。学童に持ち帰り、生かしていきたいです。
- ・実践の話が聞けて、よかったです。親への接し方も参考になりました。
- ・ベテランの指導員さんらしく、いろんな例をあげてとてもわかりやすく、子どもへの接し方を教えていただいて、すごく勉強になりました。「子どもはかわる」ということの大切さ、その上で全体がまとまるというお話は思い当たることもあり、「その子どもが何を欲しているのか」に目を向けることがベースになるんだと深く理解できました。
- ・子どもの話とか、うなずくことが多かった。具体的な話が出てとてもよかった。
- ・子どもたちの行動の中に見られる本質や本音を指導員が上手にくみ取って、子どもたちの訴えを全身で受けとめる姿勢が大切だと思いました。時には冗談まじりに、真剣なときには本気で子どもの気持ちになって考えていきたいと思いました。
- ・日々の保育の中で同じような悩みや子どもたちのエピソードを大変楽しみながら聞かせていただきました。ありがとうございました。他の指導員にもぜひ、伝えたいと思います。

- ・子どものつぶやきを見逃さず、その子にあった見守り、援助の大切さを改めて大事だなと感じたし、子どもたちは子どもの中で育つということを大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・実例が一杯で、とても楽しく聞きながら勉強になりました。先生から元気をいっぱいもらえました。
- ・ユーモアのあるお話や心温まるお話、たくさん元気をいただきました。
- ・先生の学童にかけられる熱い思いが伝わってきた。
- ・笑いあり、涙あり、毎日の自分たちも経験している出来事でとても参考になりました。
- ・毎日の学童生活の中から、そうだなあ〜とそうしたらいいんだなあ、という気づきがありました。これからはがんばっていききたいと思いました。
- ・子どもたちの事を話されてる時、涙を流していらっしゃるのを見て、先生のおっしゃっていること、伝えてくださることに全て共感できました。先生のように「この人なら」と思ってもらえる指導員を私も目指します。
- ・自分の多くの経験を交えながらの子どもの立場、保護者の立場、指導員の立場で色々な話をいただいて、とても楽しく過ごさせていただきました。
- ・笑いあり、涙ありのアツという間の2時間でした。
- ・とても良かった。学童の指導員全員で聞けたことが何よりも良かったです。
- ・いろいろな事例を聞かせていただき、うちの学童でも同じようなことがあると思いました。結果的には子どもの中で育っていくんだ、と思いつつも子どもの行動・言動についてカッとなって、そんな言い方をしたらと指導をしてしまうことも多々…反省です。今日の山本先生の話を聞かせていただき、もっと子どもの中に入り、子どもの声、つぶやきを聞いていくことと思いました。
- ・とても楽しかったです。子どもたちとの関わり方、とてもステキだな、見習いたいなと感じました。
- ・とても楽しく拝聴しました。お話の子どもさんたちがイキイキと息づいていました。山本さんの子どもさんたちへの愛情のみならず、保護者への愛情を感じました。まだまだ新米で分からないことばかりですが、理解し受け入れるという所からなら、努力していけるかなと思っています。ありがとうございました。

■講演で印象に残ったことは、どんなことですか？

- ・子どもや親と指導員と一緒に、というあたたかい気持ちです。
- ・先生が、実際に見てきた子どもたちのお話が、とても面白かったです。児童クラブにいる子どもたち重なって聞かせていただきました。
- ・しゃべるとことで見えてくることは、一杯ある。自分だけで悩んでいるのではないんだ、と解決策だと思いました。
- ・おたよりに載せていらっしゃる、子どものおしゃべりや保護者の仕事のこと、自分はなかなか書けない（了解はとっていらっしゃるようですが）、参考になりました。
- ・指導員も「親を支えている」という誇りをもって仕事をする、という言葉に励まされました。
- ・子どもたちのお話し全て忘れず、明日につなげていきます。
- ・先生の児童クラブの実体験のお話が一番印象的でした。子どもと話しをすることは私も大好きです。おやつを食べながらままごとをしながら、子どもたちの笑顔、つぶやきに私自身が癒されています。
- ・子どもとのつながりのなかで育て、育ち合っているところ。
- ・仕事は自分のために頑張っている。仕事に誇りを持って働いている。自分の時間を持つ（見つめなおす、ふりかえる）リフレッシュ。
- ・子どもたちが何でも話してくれる。安心できるような聴き上手であることの大切さ。一人ひとりの子どもたちを知る（内面まで）ことの大切さ。今後には指導員としての接し方に生かされたいと思います。
- ・学童における子どもの事例を上げておられたが、子どもは新人の先生を試したり観察しているのは、よく言われることで山本さんも話していた。子どもはアンテナを張っており、大人を見ているわけだが山本さんのように子どもを理解するためには、大人の側もアンテナを張っていかなくてはならず、子どもの送信をのこさずキャッチするには、大人が子どもの発する「電波」を見逃さないようする技術を磨くことが大切だと思えた。
- ・全体を通して「安心」を一番に話していたこと。
- ・最近の子どもは失敗をしたがらない。子はほんとに親が好き。
- ・常の子どもの中に自分を置くということを、改めて日頃の自分はどうか？と考えさせられました。
- ・いろいろな子どもがいる中で、一人ひとりをよく理解し、きずなを深めていきたいと思います。
- ・「安心感」「つながり」この2つが大きかったです。子ども、親に対しても「安心感」「つながり」を心がけていきたいと思います。
- ・子どもを分かったつもりではだめ、子どもは変わっている。子ども同士をつなげてあげる。子どもの中に身を置く。
- ・指導員は子ども中にいるのが基本。一緒に遊ぶ、一緒に過ごすということが、子どもを分かる上で一番大切なことだと改めて痛感しました。
- ・先生が話しの中で涙してしまわれた時は、私もそんな時があるなと思いながら話を聞いておりました。色々なこと

で悩んでいましたが、これでよかったと思います。

- ・山本さんの話を聞いて、鹿児島でも埼玉でも子どもは同じだなと思いました。
- ・子どもたちの中に入り、子どもたちのことを理解しているつもりでも、上からの目線で言葉をかけたりすることが多いことを反省させられました。子どもたちのことを思う山本先生のお話がとても感動しました。
- ・「大好きなお母さんの支えになりたいミキ」のお母さんのおれての手紙。
- ・指導員として自覚すべきことの指導が。
- ・指導員としてのあるべき姿、難しいことですが頑張りたいです。
- ・子どもたちの中にいて、子どもの遊びなど子ども同士をつなげる仕事である、また子どもは子どもの中で育っている、改めて感じる印象強く残る言葉でした。
- ・子どものことを分かったつもりにならない！ 年数を重ねるとかんちがいしやすくなります。子どもたちは日々変化する、ちゃんと見ていたいと思います。
- ・自分の経験談を話されている際に涙されながら…気持ちが伝わってまいりました。
- ・“そう！そう！”“ある！ある！”と共感できる話ばかりでした。
- ・子どもは子どもの中で育つ。身構えたり、とり繕ったりしなくてすむ、生活の場づくりに努めています。親は子どもの具体的な姿を知りたい、子どもの話の内容でこの学童が大切にしていること、ねがいは伝わってくる。
- ・保護者の方々への暖かさが心に残りました。少しでも見習いたいと強く思いました。支え合うがなれ合わない指導員の関係。

■いま、学童保育で困っていること、悩んでいること（課題）はありませんか？

- ・たくさんありますが、周りの先生方に相談しながらがんばっていきたいと思います。
- ・宿題の仕方（個別対応）について、どこまで教えたらいいか。
- ・保護者が自分たちの仕事を割愛しすぎていくこと。例ー保護者会を少なくしていくこととか、バザーに出店しないとか。指導員の時給、指導員の福利厚生。
- ・保護者会のあり方…忙しい仕事をもっておられる役員、保護者の現状の報告、協力のあり方、伝え方の難しさ。近年協力のあり方が変わってきた。
- ・子どもたちの日本語の不自然さー主語、述語。言葉のつなぎ方など。
- ・保護者とのかかわり方、コミュニケーションのとり方など。
- ・児童の性への関心が強い子がいること。グレーゾーンの子への対応。
- ・宿題をなかなかしない子がいて、親が「お金を払って預けているのに、宿題もさせてくれない。」と学校の保護者に言っている。
- ・保護者会との関係性についてなかなかうまくいかないことが続いていしましたが、もっとこちらから声をかけて関係性の改善を目指したいと思いました。
- ・悩んでいられることは、仕事をしている現実です。困ったらみんなで話し合ったり、保護者に話しかけたりすることを先生のお話で学びました。今は解決していますが、まだまだたくさん課題はあります。指導力、言葉かけなどです。
- ・高学年の子どもたちへの学びについて学びたい。また、低学年から高学年になろうとする心の変化、発達について学びたいと思っています。
- ・保護者との関係性に悩んでいます。子どもたちの事を相談できる状況ではないことに困っています。
- ・先輩にいろいろと教えていただきながらも、これでいいのかなあと自信のないのが現状です。子どもにあまく見られているのは確かなのですが、「あまく見られてもいいのかなあ」と少し思っていますが、いいのでしょうか？